参考資料１

現行計画（第２次宇都宮市環境基本計画）に掲げる社会像ごとの課題の整理

① 低炭素

前期計画の評価		アンケート調査結果		地域特性		関連動向		まとめ
現状や課題等	キーワード	現状や課題等	キーワード	現状や課題等	キーワード	現状や課題等	キーワード	
・「公共交通の利用促進策」は，これまでの取組成果が表れ始めているが，目標達成に向けて，更なる取組の充実が必要 ・小水力の利活用など「新たな地産地消エネルギー施策の展開」や，バイオマス資源を活用した「低炭素型地域産業の振興」などは，現時点で取組が不足している状況が見られることから，取組の見直しが必要。	ア．モビリティ政策の強化 イ．エネルギーの地産地消 ウ．環境と経済の両立	・市が目指すべき将来の環境都市の姿として，「少ないエネルギー消費で環境への負荷を減らしながら，エコで快適な日常生活と，環境と両立した経済活動ができるまち」を望む声が高い。 ・市民・事業者ともに，省エネルギーなどのエネルギー問題への関心，気候変動による異常気象等への対応といった安全への関心が高くなっている。 ・再生可能エネルギーの普及促進や，地域や個々の自宅・事業者において自立したエネルギーの確保が求められている ・ごみの分別や省エネ行動など身近な環境配慮行動が根付いてきており，引き続き，より多くの市民に環境配慮行動の維持・定着を図ることが必要 ・エコカーやエコドライブへの関心は高いが，自転車・バス等への利用が進んでおらず，ライフスタイルの転換が必要	エ．省エネルギーの推進 ウ．環境と経済の両立（再掲） オ．安全・安心 カ．再生可能エネルギーの利活用の促進 キ．自立分散型エネルギーの確保 ク．環境配慮行動 ケ．環境に配慮したライフスタイルへの転換	・単身や高齢者世帯の増加による，一人当たりのエネルギー使用量の増加が想定されるため，環境負荷低減策の検討が必要 ・人口集中地区（ＤＩＤ）の面積拡大と人口密度の低下により，人やモノ・自動車の移動距離の増加とそれに伴う燃料消費量の増加が想定されることや，エネルギー利用の合理化の観点から，コンパクトなまちづくりにおいて，交通やインフラ面における環境負荷削減策の検討が必要 ・地球温暖化の影響により生じる異常気象や災害等の増加が想定されるため，温室効果ガス排出削減策や，安全で安心して生活できる仕組みの構築が必要 ・地域のポテンシャルや特性を生かした，再生可能エネルギーなどの導入促進策が重要 ・温室効果ガスの排出量は年々増加傾向にあり，原因を分析のうえ，分野横断的な連携による施策の検討が必要 ・自転車によるまちづくりの推進など，自動車依存社会からの脱却と，温室効果ガス排出削減策の検討が重要。また，観光・健康等との相乗効果が見込める分野横断的な環境施策の検討が必要	コ．価値観の多様化や高齢化への対応 エ．省エネルギーの推進（再掲） サ．コンパクトシティ オ．安全・安心（再掲） カ．再生可能エネルギーの利活用の促進（再掲） シ．分野横断的な施策の展開	・次世代自動車や蓄電池・ＩＣＴなどの新たな環境技術を取り入れるとともに，スマートコミュニティやスマートシティの考え方を取り入れたまちづくりや社会全体の構築が必要 ・再生可能エネルギーの固定価格買取制度の動向を注視する必要がある	ス．技術革新への対応 セ．ICT の活用 キ．自立分散型エネルギーの確保（再掲） ソ．スマートコミュニティ・シティ（地域単位でのエネルギーの有効利用） カ．再生可能エネルギーの利活用の促進（再掲）	・ 市民・事業者ともに，エネルギーに対する意識は高いものの，高齢者世帯の増加などより，今後，家庭部門におけるエネルギー使用量の増加が想定されることから，省エネルギー型のライフスタイルへの転換や再生可能エネルギーの導入等が必要 〔 エ，カ，ク，ケ，コ 〕 ・ 依然として自動車依存度が高いことから，環境負荷の少ない公共交通の整備や，多様なモビリティとの連携など，ネットワーク型コンパクトシティの形成に合わせた環境負荷低減策の充実が必要 〔 ア，ケ，サ 〕 ・ 今後，増加が想定される異常気象や災害へのリスクに対応するとともに，都市全体のエネルギーセキュリティを確保するため，安全・安心が図られたまち・社会の構築が必要 〔 オ，キ，ス，セ，ソ 〕 ・ 次世代の環境・エネルギー関連技術の活用推進のほか，地域特性を活かした地産地消エネルギー施策の実施，新たな雇用を生み出す低炭素型地域産業の創出など，環境と経済が両立する施策の展開が必要 〔 イ，ウ，シ，ス，セ 〕

② 循環利用

前期計画の評価		アンケート調査結果		地域特性		関連動向		まとめ
現状や課題等	キーワード	現状や課題等	キーワード	現状や課題等	キーワード	現状や課題等	キーワード	
・「ごみの発生抑制の推進」や「適正な資源循環利用の推進」に向けて，分別強化やリサイクル運動等に取り組み，ごみの最終処分量の削減など，目標達成に向けて概ね順調に進捗しているが，「事業系ごみの資源化の推進」については，取組が遅れていることから，事業者と連携した取組強化が必要	**ア．2R が進む社会システム** **イ．市民・事業者・行政の連携**	・身近な環境について概ね満足している点として，「ごみ出しや分別，資源回収の状況」とする市民が 5 割を超えており，「ごみの分別やごみ出しの日時を守っている」市民の割合は 97.7%と高い。 ・ごみの分別や省エネ行動など身近な環境配慮行動が根付いてきており，引き続き，より多くの市民に環境配慮行動の維持・定着を図ることが必要 ・事業者が自身で取り組むべき環境施策として，大規模・中小規模事業者ともに「事業活動から出る廃棄物の削減やリサイクルの推進」を考えている。 ・また，中小規模事業者においては，「事業活動から出る廃棄物の削減」や「排出物の浄化や有害物の適正管理」などに取り組んでいる割合が 5 年前と比べ増加しており，引き続き，より多くの事業者に資源循環に配慮した行動の維持・定着を図ることが必要	**ウ．環境配慮行動** **エ．リサイクルの推進** **オ．廃棄物の削減や適正管理**	・事業系ごみの減量化・資源化を進める中では，事業者への分別指導の強化や，事業者と連携した取組の強化が必要 ・事業者がリデュース・リユースの取組みを推進しやすい社会システムの検討が必要 ・バイオマスタウン構想を軸に，バイオマスの利活用や資源循環の推進に向けた仕組みの検討が必要 ・人やものを大切にする「もったいない」運動の推進によって，ごみの分別やごみ出しなど，もったいない精神に基づいた環境配慮行動が定着してきている。	**オ．廃棄物の削減や適正管理（再掲）** **カ．再生可能エネルギーの利活用** **キ．資源循環** **ク．もったいない精神**	・市の地域特性に応じて，循環可能な資源はなるべく地域内で循環させるため，最適な規模の「地域循環圏」を構築することが重要	**カ．地域循環**	・ 事業系ごみの減量化・資源化を進める中では，廃棄物そのものの削減や，資源循環へと促すサイクルの構築や環境配慮行動の推進が必要 〔ア，イ，ウ，エ，オ，カ，キ〕 ・循環可能な資源はなるべく地域で循環させる「地域循環圏」の形成に向けて，事業者などが取り組みやすい社会システムを，事業者などと連携・協力しながら構築することが必要 〔ア，イ，エ，カ，キ〕 ・本市独自の環境政策である「もったいない」運動に引き続き取り組み，ごみの削減やリサイクルなど市民や事業者における環境配慮行動の更なる浸透が必要 〔ア，イ，ウ，エ，オ，ク〕

③　調和と共生

前期計画の評価		アンケート調査結果		地域特性		関連動向		まとめ
現状と課題等	キーワード	現状と課題等	キーワード	現状と課題等	キーワード	現状と課題等	キーワード	
・環境目標である「生物多様性の意味を知っている市民の割合」は減少を続けているとともに，「生物多様性の保全対策の推進」に係る取組も遅れていることから，取組の強化や見直しが必要 ・「事業者と連携した生活環境保全対策の推進」については，環境目標である「環境協定締結事業者数」が未達成であり，取組の強化や見直しが必要	ア．生態系の保全 イ．事業者と連携した環境の保全	・環境都市の姿として「大気や水の汚染など公害のない安全で安心な生活環境が確保されているまち」を望む声が高い ・身近な環境として，「静かさ」や「空気のきれいさ」への満足度が高い ・市の環境施策として，都市空間の快適さを象徴する都市緑化や緑地の保全へのニーズが非常に高い	ウ．水・大気環境の保全 エ．緑化による快適な都市空間と緑地の保全	・低密度な市街地の拡大や，耕作放棄地の増加による農地の多面的な機能の喪失，空き家の増加に伴う景観や安全への悪影響を抑制するため，コンパクトシティ化等による都市と自然との調和や農地・空き家等の適正管理が重要 ・温暖化による農作物への影響や雨水の集中的な流出，ヒートアイランドなどに対応できるよう，都市部の緑化や緑地の保全・創出が必要 ・多様な動植物の生息・生育環境を維持できる面的な空間形成を行うため，都市開発や農業と連携した対策が必要 ・自動車依存による大気汚染物質の増加に対応するための分野横断的に対応する施策の検討が必要	オ．安全・安心 カ．都市部と農村部の調和と適正管理 エ．緑化による快適な都市空間と緑地の保全【再掲】 ア．生態系の保全【再掲】 ウ．水・大気環境の保全【再掲】	・市の都市部，農村部等の特性に応じて，都市公園や河川，水田などによる水と緑のネットワークを形成し，生態系ネットワークの形成促進が必要 ・２２世紀に向けたビジョンとして，自然環境と人々の暮らし・生物の営みを将来的に持続可能とするため，エネルギーや物質，生態系などの自然の循環の力を上手に利用し，自然や動植物とともに生きていく「循環共生型社会」が示されている	キ．水と緑のネットワーク ア．生態系の保全【再掲】 ク．持続可能な循環共生型社会	・ 自然の循環の力を利用しながら，自然や動植物とともに生きる「循環共生型社会」を目指して，都市と自然の調和や生態系の保全等に取り組むことが必要 〔　ア，カ，キ，ク　〕 ・ 温暖化による気候変動や市街地の無秩序な拡大，耕作放棄地や空き家の増加などに対応するため，コンパクトシティ化に併せて，都市部と農村部の調和や適正管理，都市緑化，水と緑のネットワーク形成が必要 〔　エ，カ，キ　〕 ・ 市民や事業者のニーズや地球温暖化の影響を踏まえ，快適で安全な生活を支えることができる生活環境の実現や，緑化による快適な都市空間の形成，緑地の保全に取り組むことが必要 〔　イ，ウ，エ，オ　〕 ・ 自動車依存による大気汚染に対応するため，環境負荷の少ない公共交通ネットワークの構築や多様なモビリティの連携など，自動車依存社会からの転換を図ることが重要 〔　イ，ウ　〕

④　推進基盤

前期計画の評価		アンケート調査結果		地域特性		関連動向		まとめ
現状と課題等	キーワード	現状と課題等	キーワード	現状と課題等	キーワード	現状と課題等	キーワード	
・環境目標である環境学習センターの環境講座への参加者数や家庭版環境ＩＳＯ認定家庭数は，計画以上に進捗しており，今後は，学んだことを地域で活かすことのできる仕組み作りなど，市民や事業所による環境保全活動の促進が必要	ア．学んだことを生かす人づくり イ．市民・事業者・行政の連携	・自宅での省エネ行動やゴミ出し，買い物に関する環境配慮行動，地域ぐるみの清掃活動などへの参加割合は高い ・市民（特に青年層）や事業所における環境保全活動や環境学習への参加・参画割合が低く，これらに参加する場の創出や啓発が必要 ・環境都市の姿として，環境教育等により人材が育成され，市民が環境保全活動や環境配慮行動を積極的に行うことへの関心が高い ・環境マネジメントを実施する事業者の割合が低く，事業者に対する普及啓発が必要	ウ．もったいないの精神 エ．市民協働による環境保全活動 ア．学んだことを生かす人づくり【再掲】 イ．市民・事業者・行政の連携【再掲】	・北関東有数の経済拠点及び人・もの・情報が集積し，交流する拠点として，広域的な中心性，中枢性がある ・古い歴史や伝統文化，里山，河川はもとより，文化施設や商業施設の集積など，地域ごとに多様な文化的資源や自然環境，都市環境を有しており，これらの地域資源や地域特性を生かしていくことが必要 ・宇都宮市独自の取組として，ひと・もの・まちを大切にする「もったいない運動の推進」に取り組んでおり，より一層の定着を図ることができるよう，機運の醸成が必要 ・地域団体等が一体となって地域づくりを担う基盤が形成されていることから，市民協働の取組を通して，地域主導による環境保全活動の充実強化を図る必要がある ・住みよさ（安心度，利便度，快適度，富裕度，住居水準充実度）ランキング１位であり，総合的な都市力がある	オ．広域的な中枢性や先導性 カ．地域資源の活用 ウ．もったいないの精神【再掲】 エ．市民協働による環境保全活動【再掲】 キ．総合的な都市力の向上	・安全の確保（環境リスクの低減）を前提とした低炭素・資源循環・自然共生の各分野が統合的に達成されている社会の構築が重要 ・２２世紀に向けたビジョンとして，自然環境と人々の暮らし・生物の営みを将来的に持続可能とするため，エネルギーや物質，生態系などの自然の循環の力を上手に利用し，自然や動植物とともに生きていく「循環共生型社会」が示されている ・環境・経済・社会の更なる統合的向上を目指し，低炭素・資源循環・自然共生の連携だけではなく，都市政策や教育，医療・健康政策等の各分野と連携した戦略展開が極めて重要 ・宇都宮市の将来の都市空間の姿として掲げる，ネットワーク型コンパクトシティを踏まえながら，低炭素・循環利用・自然共生を統合的に達成する取組を検討する必要がある。 ・経済や人・もの・情報に係る国際化の影響を踏まえて，環境政策に生かす視点が重要	ク．安全安心な生活環境 ケ．持続可能な循環共生型社会 コ．分野横断的な連携 サ．コンパクトなまちづくりとの連携 シ．国際化への対応	・地域の環境向上のために，学んだことを地域で生かしたり，地域ぐるみでもったいない運動に取り組んだりするなど，市民や事業者と連携した環境学習や人材の育成，環境保全活動の促進が必要 〔　ア，イ，ウ，エ　〕 ・地域資源を活用しながら，低炭素・資源循環・自然共生だけではなく，経済の活性化や地域コミュニティの再生・強化，健康づくり，文化の継承など，環境・経済・社会が統合的に向上させていく視点が重要 〔　オ，カ，キ，ク，ケ，コ　〕 ・コンパクトなまちづくりが進む中において，持続可能な循環共生型社会を目指すことができるよう，環境リスクの低減を図った安全な生活の確保を第一としながら，様々な分野を横断的に統合した大局的な環境負荷低減策の検討が必要 〔オ，キ，ク，ケ，コ，サ，シ〕